

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 京都文教大学 実施報告書



実施主体 臨床心理学科保育福祉支援コース2年生

実施内容 平成25年12月23日近鉄大久保駅にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

ゼミにて、子どもの虐待とその防止・子育て支援などについて、現場の福祉職と共に学習した。保育を学ぶ学生として、虐待防止のメッセージを伝えたい「対象」、伝えたいメッセージの「内容」、メッセージを伝えるための「方法・手段」などについてディスカッション。オリジナルに企画し、オリジナルなデザインを共同で考えた。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

虐待防止月間中、学内でポスター掲示、パンフレット・オレンジリボン配付を行った。社会に向けての発信は、一般市民と、子育て中の親を別個の対象とし、それぞれに応じたメッセージカードの作成と、グッズの選択を行った(写真上段:市民向け 写真下段:親向け、京都府と提携)。12月に、近鉄大久保駅で街頭啓発活動を実施した(グッズ、約600個配付)。1月に、メッセージカードとグッズを近隣保育園に届け、必要な親へのメッセージカードとグッズの活用を依頼した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- * 伝わりやすい(伝えたい)メッセージ・絵や、適切なグッズを選ぶのが難しかった。
- * 「がんばってね、ありがとう。周りに伝えておくわ…」と関心を示してくれる人がいたのが嬉しかった。私たちの趣旨を、少しでも分かってくれた人がいた。
- * オレンジリボン運動が、もっと広がっていったらいいなと思った。
- * 活動してみると、子ども連れであっても、関心の低い人や受け取ってくれない人も結構多く、世間の意識はまだまだ低いと感じた。配付活動していて気持ちが萎えてしまいそうになったこともあった。
- * 活動してみても楽しかった。
- * メッセージを読んで、少しでも気持ちが温くなった人がいたらいいなと思った。
- * 「こんな活動をしている学生がいる」、と分かってもらえたのではないだろうか。次に機会があれば、少しでも関わりたい。
- * ただ渡すだけでは伝わらない。こちらの気持ちや姿勢をしっかりと表すことで、思いが伝わるのだと思った。
- * 今、この時にも、虐待が起きていて、それに周囲の人が気づけるよう、今後も虐待防止のボランティアをして、いろんな人に知ってもらえたらいいなと思った。



上図 オリジナルメッセージカードとあめ
下図 オリジナルデザインウェットティッシュ
オリジナルメッセージカード